

**製品名: ABL1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87489**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,FC 1:200-1:500
分子量	Calculated MW:123 kDa; Observed MW:135 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ABL1
別名	ABL; JTK7; p150; c-ABL; v-abl; CHDSKM; c-ABL1; BCR-ABL; bcr/abl
遺伝子 ID	25
SwissProt ID	P00519
免疫原	ヒト ABL1 の組み換えタンパク質

**背景**

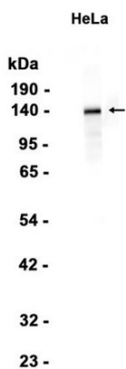
この遺伝子は、細胞分裂、接着、分化、ストレス応答など、様々な細胞プロセスに関与するタンパク質チロシンキナーゼをコードす

るプロトオンコゲンです。このタンパク質の活性は SH3 ドメインによって負に制御されており、このドメインをコードする領域を欠失するとがん遺伝子となります。普遍的に発現するこのタンパク質は、CDC2 を介したリン酸化によって制御される DNA 結合活性を有しており、細胞周期機能への関与を示唆しています。この遺伝子は、様々な白血病において様々な転座パートナー遺伝子と融合していることが報告されており、中でも t(9;22)転座は、ブレークポイントクラスター領域遺伝子 (BCR; MIM:151410) の 5'末端との融合を引き起こします。この遺伝子の選択的スプライシングにより、2つの転写バリエーションが生じ、これらのバリエーションは、残りの共通エクソンにスプライシングされる、選択的な第 1 エクソンを含みます。[RefSeq 提供、2014年8月]

## 研究分野

-

## 画像データ



ABL1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HeLa 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。